

キジ 英:Green Pheasant 学:Phasianus colchicus

1. 分類と形態

分類: キジ目キジ科

日本に生息するキジはタイリクキジの亜種とされている。在来のキジは、キジ、トウカイキジ、シマキジ、キュウシュウキジの4亜種に分けられ、北海道を除く本州、四国、九州に生息する。移入されたキジは亜種コウライキジで北海道と対馬、本州・四国・九州の一部、琉球諸島などに生息する(日本鳥学会 2012)。一方、海外では前者の4亜種をニホンキジとして独立種として扱うことが多い(IOC 2015)。

キジは日本の昔話「桃太郎」にも登場する日本人には親しみ深い鳥で、日本に固有な鳥である(欧州、北米、ハワイに移出された例あり)。また、姿が美しく、国民のだれもが知っているので日本を代表する鳥として、1947年日本鳥学会の推薦で国鳥に決まった。

翼長:	♂ 215-240mm	♀ 195-207mm
尾長:	♂ 270-425mm	♀ 202-275mm
露出嘴峰長:	♂ 29-36mm	♀ 25-31mm
ふしよ長:	♂ 64-73mm	♀ 55-64mm
体重:	♂ 847-1387g	♀ 692-970g

清棲(1981)に基づく



写真. キジの雄成鳥(左・中央)と雌成鳥(右)

羽色:

雄の胸は黒色で暗緑色の金属光沢がある。尾は中央が緑色を帯びた灰色で黒色の横縞が多数ある。目の周囲には広く赤色の皮膚の裸出部があり、繁殖期には著しく大きくなる(写真 左・中央)。雌の胸、腹は赤さび色を帯びた淡黄褐色で黒色のU字形の横縞がある(写真 右)。

鳴き声:

繁殖期には雄は「ケンケン」と1-5分おきに鳴き、連続で1時間半以上も鳴くことがある。「ケンケン」と鳴いた後は翼を激しく振らせて「ドドド」という羽音をたてる。これを母衣打ち(ほろうち)という。雄は、雌に対して翼を半分開き、腰の羽毛を膨らませ、尾羽を扇のように開いて美しい羽を見せるディスプレイを行なう。その他にもいろいろな声を出す。詳細は後述する。

2. 分布と生息環境

分布:

在来のキジは留鳥で、積雪の山地では低地に移動することもある。亜種キジは北日本に分布し、東日本以西の本州と四国に亜種トウカイキジ、三浦・伊豆・紀伊半島と屋久島、種子島に亜種シマキジ、九州と中国・四国の一部に亜種キュウシュウキジが分布する。

生息環境:

農耕地、雑木林やその周辺の草地、竹藪、笹藪、河川敷の草地、草原、丘陵地などに生息する。

3. 生活史

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
越冬期			繁殖期								

一般習性:

繁殖期は地域によって異なり、関東では3-6月、寒い地域では1か月から1か月半ほど遅くなる。雄キジはなわばりを持っており、その広さは競争相手の雄の数や雌との関係、生息環境で異なる。広さは0.2-10haとの報告があるが(丸 1988)、筆者の調査地(横浜)では0.5-2.4haだった。

冬には雄は単独か群れになるといわれるが(Kuroda 1981)、横浜の生息地では周年なわばりを維持し、冬期になわばり主の交代も観察され、雄同士の間合いがあったと推定された。なわばり争いはにらみ合ったり、飛び上って蹴り合ったりする。

繁殖システム:

婚姻制度は一夫多妻、多夫多妻(乱婚)とも言われているが、雌が雄のなわばりの間を自由に移動する行動が観察され、筆者は乱婚の可能性があると考えている。

巣・卵:

農耕地、草地、雑木林の地上に約17-25cmの窪みをつくって巣にする。巣には樹木の葉、枯れ草などを敷いて産座にする。巣の周囲は草本で覆われ、見つけるのは困難である。

産卵期は4-6月。一腹卵数は6-12個。卵は緑灰色で斑紋はない。サイズは平均長径43.1mm、平均短径33.3mm。

抱卵, 育雛期間, 巣立ち率:

雌だけが抱卵する。卵は抱卵後23-25日でふ化する。雛はクリーム色の幼綿羽で覆われ、背や腹に暗褐色の縦縞がある。筆者の観察では、雛の成長は月齢2か月で雌親並の大きさになる。3か月半で雄の特徴(蹴爪や首周りの雄の羽色)が現れ、8か月で成鳥とかわらなくなった。野外で雌親が1-6羽の幼鳥を連れている状況が見られたが、雛が見られない年や1羽の場合が多く、巣立ち率は低いと思われる。

4. 食性と採食行動

主に地上を歩いて、採食する。雑食性である。植物質ではハコベ、ヨモギ、ナノハナ、ツクシ、ドングリ、カラスノエンドウ、キイチゴ、アケビ、ヤマブドウ、キビ、アワ、ムギ、コメ、トウモロコシ、キャベツ、サツマイモなど葉や花、実、根、動物質ではバッタ、イナゴ、キリギリス、テントウムシ、カミキリムシ、コガネムシ、カマキリ、ハエ、ハチ、コオロギ、アリ、カタツムリ、ナメクジ、ミノムシ、クモ、チョウやガの幼虫などを食べる。

5. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

● 鳴き声を持つ意味

雄キジは3月下旬から6月上旬の日の出から4時間位の間によく鳴く。よく聞かれる鳴き声は下記の通りである。

ケンケン(高鳴き・Crow call):なわばりを確立する春に最もよく鳴く一般的な鳴き声。一日中鳴くが早朝や夕方によく鳴き,どしゃ降りであれば雨の中でも鳴く。また他の雄の高鳴きや雷,地震,自動車のとびらを閉める音などにも反応して鳴く。この鳴き声は他の雄キジに対し自分のなわばりに入らないよう警告し,雌に対しては自分の存在を知らせていると考えられる。

ケッケケッ(警報鳴き・Alarm call):他の雄がなわばりに侵入した時や危険な状況になった時に鳴く。

ケーケーケー(敵対鳴き・Antagonistic call):他の雄と敵対的な状況になった時,自分の方が強いこと,攻撃するぞという挑戦の意味を表わすと考えられる。

チョケン, チョケン(飛翔鳴き・Flight call):飛行して逃げる時や逆に上空から威嚇する時に鳴く。早朝や夕方の平穏な時に埒周辺で鳴くこともある(Heinz & Gysel 1970)。

雌はチーヨ,チーヨと小さな声で鳴く。

● ケンケンという高鳴きで個体識別が可能

人が声で誰かわかるように,キジの声でも個体識別が可能である。雄キジの高鳴きの声紋・Spectrogram (図)も1羽ごとに異なっていて,その違いをパラメータで表わし,解析することで個体識別が可能だった(Hayashi 2009)。

個体識別に使えるパラメータは,以下のようなものであった。

- ① 「ケンケン」「ケンケン」「ケンケン」などと違って聞こえる第1音節と第2音節の長さの比
- ② 早口かゆっくりかを示す第1音節の頭から第2音節の頭までの時間
- ③ 高音か低音かを示す基本周波数の高さ
- ④ 澄んだきれいな声かしわがれた濁った声で鳴くかを示す倍音の明瞭さ

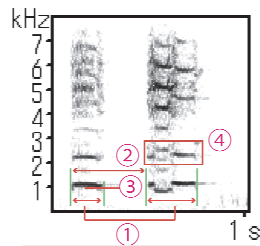


図 キジの声紋と個体識別に用いたパラメータ

なわばり防衛などのキジの社会行動を明らかにするためには,個体識別が必要である。通常はカラーリングを装着して個体識別を行なうことが多いが,藪の中にも多いキジをカラーリングで識別することは難しい。鳴き声の個体識別により,キジの雄がどうやってなわばりを手に入れようとしているのか,そして,なわばりを持つ雄はどうやって守ろうとしているのか,その戦術を明らかにすることができるかもしれない。

ほとんど姿を見せず,鳴かない非繁殖期でも鳴き声を再生するとキジは鳴き返してくる。それを録音し,個体識別をすることにより越冬生態を明らかにすることができるだろう。

● 狩猟放鳥が乱す亜種の特徴

キジは日本の国鳥であるが,ヤマドリ等とともに人気のある狩猟対象種として持続的な狩猟が続けられている。海外における狩猟鳥管理の方法はさまざま,英国では土地所有者が自分の領地内の狩猟鳥も所有する権利を持つ為,個人的に管理される。米国では狩猟は土地所有者とは無関係に自由に行われることから地方政府が管理している。日本では野生動物は民法上無主物という位置づけのため,政府や自治体が関与している。

キジの狩猟数の推移は1970年代をピークに減少しているが,これまで狩猟鳥の個体数維持の観点から人工繁殖が進められ,全国各地で放鳥が行なわれてきた。放鳥個体の生存率や繁殖成功率は不明であるが,地域を選ばない大量の人工繁殖個体の放鳥が続いたことから,本来の亜種の特徴(形態学的)が消失している地域が増加したことが懸念されている。現在は規定により,現地で生息する亜種が放鳥されている。

6. 引用・参考文献

林曉央. 2002. 雄キジのさえずりと繁殖行動. Strix. 20: 31-38.
 Hayashi T. 2009. Individuality of crow calls in male Japanese Green Pheasants *Phasianus versicolor*. Ornithol Sci 8: 67-73.
 Heinz G & Gysel L. 1970. Vocalization behavior of the Ring-necked Pheasant *Phasianus colchicus*. Auk 87: 279-295
 北海道環境科学研究センター. 1995. コウライキジ分布調査報告書. 55. 札幌.
 International Ornithological Congress (IOC). 2015. World Bird List version 5.3. <http://www.worldbirdnames.org/>
 Johnsgard P. 1999. The Pheasants of the World 2nd ed. 290-293. Smithsonian Institution Press. Washington D.C.
 川路則友. 2012. キジ類. 羽山伸一他(編)野生動物管理. 448-454. 文永堂出版, 東京.
 清棲幸保. 1981. 日本鳥類大図鑑II. 講談社, 東京.
 Kuroda N. 1981. The Japanese Green Pheasant *Phasianus (colchicus) versicolor* in Japan. World Pheasant Association Journal 6: 60-72.
 黒田長久・小宮輝之. 1987. 世界の動物と飼育 キジ目. 118. 東京動物園協会, 東京.
 丸武志. 1988. キジのなわばりの特徴. Strix 7: 149-158.
 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録 第7版. 日本鳥学会. 三田.

執筆者

林 曉央

東京都八王子市出身。現在の横浜に引っ越した時、住宅地から鎌倉への尾根道で雄キジが我が家の方へ、両翼を広げて滑空する姿を見て感動し、キジの調査・研究を始めました。現役時代は東芝で国際ビジネスに携わり、退職後は学問の世界で、友人・知人に支えられ「人生二毛作」を楽しんでいます。写真は広島県三次市の河川敷で調査中の筆者。

